

## V. 各委員の感想

- ・前期の答申を受けた「ふりかえる会」の実施は、当初の社会教育学習会の委員の模索、7月からは世話人会の具体的な企画提案のための度重なる打ち合せ、そして、公運審での議論という多くの時間と労力の積み重ねで、初めての試みを1月に実現することができた。「ふりかえる会」という方法で、公民館がどんなことをやっているのかを「見える化」でき、市民の公民館事業へのさまざまな見方や意見が示されたことは大きな意味があると思う。これをどう生かしていくか、今後、長いスパンで丁寧に取り組んでいきたいと思う。
- ・ふりかえる会で職員方の報告を聞いて、真摯に取り組まれたことに感謝します。また、話し合いの中で出された意見も貴重でした。それらを私なりにまとめると、参加者が課題を示し考え合う学習、職員が課題を提起する能力、子どもたちが主人公になれる場を作ることが確認されていると思いますが、公運審でまとめるには時間が欲しかったです。障害者青年学級や若者の事業のふりかえりもこれから知りたいですね。
- ・みんなで鯨を捕りに行きました。一頭つかまえて来たが、標本にするのに半年以上経過してから始めたので、鯨が化けてしまい、船頭さんが集まって、ある人はこれはシーラカンスだといい、ある人はウミヘビだといい、ある人は新種の深海魚だといい、愚かな私は結局ついていけず終いでした。「会」が終わって直後に、成果・課題を皆で検証したかった。時間切れになって実施の報告を残すことに拘り、肝心の検証も総意を欠いた。
- ・31期のテーマは、モデル事業でふりかえる会を試行し、グループ討議し結果を分析成果・課題を抽出し、取り上げた今回の事業のみではなく、一般事業へ展開するための手順等を提案することと認識していました。しかし、試行で手にした貴重な記録をいかせず、対象事業の理解・勉強と感想・記録のレベルにとどまりました。記録を分析、抽象化し、事業共有評価視点の総括・まとめへ踏み込めなかったのは、課題の深さについて、共有化を得るための時間と委員の体験が必要だったということでしょう。幾つかの提案も、理解を得ることなく没になり、流れを変えられなかったこと、長年の経験を伝え具現化へ寄与できなかったこと等、力量不足を痛感した今期委員会でした。
- ・前期に提案したものの1つを実行する、という事に関しては文字どおり行えたものと感じています。しかし、ふりかえる会実施の意味、効果を議論・検討するには十分に注力できなかった点が悔やまれます。しかしながら、試行的に実践したこと自体は新しい事にチャレンジしたという意味においては大変意味のあったことだと感じています。さらに様々

な背景をもつ委員が協力して開催にこぎつけたことは職員との協同作業であり委員間、委員職員間の心的距離が近づいたのではないかと個人的には感じました。あっという間の任期でありました。みなさまありがとうございました。

- ・今回の「ふりかえる会」では「評価」という言葉を使わなかったことが印象的でした。世間では「間違いを認めること」が益々しくくなっているように感じます。間違いを認められないと、改善はできません。それがとてもしにくくなっているからこそ「評価」という言葉を避けたのかもしれないかもしれません。また善し悪しの判断は人によって異なります。評価することは異なる価値観の折り合いをつけることでもあります。その難しさを痛感した「ふりかえる会のふりかえり」でした。
- ・「ふりかえる会 実施 記録」の作成過程は、決して平坦ではありませんでした。活発な議論というより噛み合わない議論が続き、後戻りするようなこともありました。そんな中、時間ばかりが過ぎて、最後までモヤモヤした感じが拭えず残念でなりません。わたし自身の知識不足、勉強不足も大きく、申し訳なく感じています。しかしながら、「ふりかえる会」開催は、職員の方々の努力もあり、価値ある成果を残したと思います。この冊子が次回に繋がり、活用されることを望んでいます。
- ・今回、初めての試みで「ふりかえる会」ができたことは、とても良かったと思う。普段自分と関わりのなかった公民館事業についても、担当職員の報告で知ることができたとし、参加者がグループに別れての話し合いでも、いろいろな方の意見や感想が聞けて良かった。それら市民からの意見は、アンケートには出てこないかもしれない“生”の声で、公民館事業の成果と今後の課題などがわかり、とても有意義だった。今回の経験を、ぜひ次回以降に生かしたいと思った。
- ・第31期公民館運営審議会の大きな任務として、第30期答申で示された提案の「公民館活動をふりかえる会」の実施があつたが、ふりかえる会で議論するためには、取り上げた事業に参加していないと、深く理解した上でのふりかえりが難しかった。任期の早い時期にこの実施を知ることができたなら、意識的に対象となった事業に参加して、ふりかえることができたのではないかと思う。次期以降も継続するのであれば、早く対象事業を委員に周知してもらえると、よりの確なふりかえりができるのではないかと思う。
- ・みんなで話そう公民館講座—市民と職員で「学び」をふりかえる会—が一月に開かれ私も出席し、大変得るところが多くありました。この会の目的として、公民館事業をよりよくするため、市民と職員が事業の裁量と課題を明らかにし、多角的視点を得て学びの意味をとらえ直し、公民館の教育的機関としての役割を共有することでした。国立の公民館は多

くの魅力的講座を開いており、より多くの市民が自らの力を高められたらと思います。

- ・時間をかけて話し合い答申を出しても、それが実施されることは多くはありません。今回、前期の答申を引継ぎ、実際に「ふりかえる会」開催までこぎつけたことは、評価に値すると思います。またそれ以上に、準備の段階で公民館職員の方々と何度も打ち合わせを重ね主催事業について話し合い、審議委員と職員の方々と共に取組んだプロセスが、次回開催への取り組み課題は多くあるとは思いますが、とても重要だったと思います。
- ・公民館を「より良くする」ことを目的・使命とする会であるからには、会の関係者は様々な声に耳を傾けるのは当然として、そこで意見・提案された「まだ見ぬ変化」や「新たな挑戦」に対して、予断をもって忌避することなく、柔軟に理解や受容を示し、試行や実現の道に導くことが求められるものと思います。およそ先人たちのそうした不断の変革の試みのもとに積み上げられてきた公民館の歴史が今後も受け継がれていくことを願います。
- ・公民館が「共同で本を読むこと」を学習と位置付けているのは、各自が読みを持ち寄ることは人間や社会を読み解く1方法であり、自分とは異なる考え方や他者に寛容になり、市民・講師・職員が相互に学び合い、その過程で互いを気遣う関係を培ってきたからではないだろうか。この緩やかなつながりは地域を豊かにしている。1年の締めくくりに文集を編む作業は、市民が過去・現在・未来にわたって歴史を綴る一員になることを意味すると思った。
- ・ふりかえる会がAグループからDグループまでの4講座に分かれて行われたこともあり、各グループの報告から共通理解に基づく全体のまとめをすることの難しさを感じました。しかしながら、各グループとも市民目線に沿った地域とのつながり、体験、世代間の交流などを大切にしましたもので、それぞれ今後を考えるうえで貴重な資料になると思います。個人的にも大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・公民館の事業に参加したことがなかったので、今回の「ふりかえる会」に参加することで、初めて公民館事業の詳しい内容を知ることとなりました。私個人にとっては非常に良い機会です。今後公民館で学ぶということはとても有意義であると気付かされましたが、ただその一方で、現状の私がこの会に、公運審委員として参加させてもらうことが相応しくないのではないかと感じました。今回は第一回ということで議論の方法も確立されておらず、かなりの時間を要してしまうこととなりましたが、今後はこの反省を生かし、より良い公民館運営がなされることを期待しております。